

## 『時間あれこれ』

元カナダ大使 溝口 道郎

若い時は金（カネ）も時間もない、中年になると金はあるが時間がない、高齢になると時間はあるが金はない、といわれる。私も「金持ち」ならぬ。「時間持ち」になった今、時間について考えることがある。

日本人は時間を守るということを我々は誇りとしている。約束の時間に遅れる人はまずいない。

新幹線はじめ我が国の交通機関は時間表通り正確に運転される。外国人観光客などは舌を巻く。

しかしながら、である。大分昔であるが、東京で会った駐日アメリカ大使は私に、「公邸でパーティーを開く時、多くの日本人は開会時間のずっと前に到着する、家内はまだ支度もできていないのに、とぼやいている。」と言った。ちょっとしたショックであった。

そういえばデンマークではパーティーに遅く来る人はもちろん、早く来る人もいない。

招待した時間にぴったり呼び鈴が鳴る。扉をあけると招待客全員が二列縦隊で並んでいるではないか。ある人に早く来たらどうするの、と聞いたら、車の中で待っているのだ、と答えた。厳しい冬季でもそうする。

そう見ると日本人は時間を守るという神話もやや怪しくなる。確かに東南アジアや中東などに比べると我々のほうが時間に神経質といえるが、北欧程ではないのかもしれない。

昔クウエートの外務大臣が東京に来て我が国の外務大臣と会談した。会談中、日本の大臣は度々時計を見て、会談が終わるや否やすぐ姿を消した。クウエートの大臣は激怒し、日本との外交関係は一年間断絶となった。私は当時サウジアラビアに勤務していたが、アラビアの高官に「東京は忙しいところだ、外交断絶は行き過ぎではないか。」とのべたところ、「金持ちも貧乏人も時間は持っている、それを惜しむことは許されない。」という変な返事が返ってきた。

フィリピンに勤務した時もそうであったが、サウジでも時間に無頓着にならないとすごしにくい。ラマダン（断食月）の時は特にそうである。ある時、私はジェッダの豪商に面会を申し込んだところ、午後11時半に来なさい、という。その時間にお伺いしたら大広間に先客が20人ばかりいるではないか。ソファに座って次々と出されるガホ（アラビアコーヒー）、紅茶、コココーラ、などを飲みながら順番を待つ。結局ご本人と面談できたのは2時間後であった、「よく待ってくれた。貴方の知りたいことは何でも話しましょう」と喜んでくれたのは幸いであった。

アラビアと言えば、刑罰がかなり重い。今でもそうかもしれないが、当時アルコールを飲むと鞭打ち、泥棒をすると左手を切り落とす、殺人をすると首を切られる。当時処刑は町の中心にある広場で公開で執行された。ある時、知人のアラビア人に、「泥棒をただけで手を切るのは残酷ではないか。」と聞いた

ところ先方は、「西洋では泥棒を10年、20年と牢屋に入れる、一度しかないその人の人生の貴重な時間を奪うほうがよほど残酷である。」と言うではないか。私は、なるほど、それも一理あるのかな、と考え込んでしまったものだ。